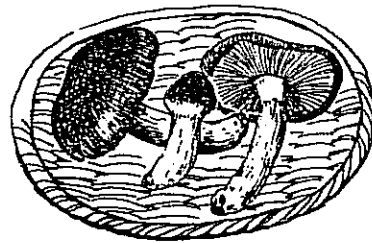


## 緑のまちあれこれ

- 7月17日に北総線スカイアクセスが開通しました。どんな電車が走るのか、ちょっぴり楽しみにしていたのですが、北国分駅を走りぬける特急電車を見ただけで、まだ乗ったことはありません。日本一高いと言われた北総線の運賃が、やっと下がるということを知っていました。いざ蓋をあけてみると、200円の最低運賃が190円に、次の300円が290円になるだけでした。期待外れにガッカリした人も多いのではないのでしょうか。それだけではありません。各駅電車と各駅電車の間を通りぬけるようにアクセス特急が走り、各駅電車は矢切駅や東松戸駅で通過待ちをするようになって今までより時間がかかることが多くなってしまいました。それを考えると運賃をもっと下げて欲しいと思ってしまいます。北国分駅のまわりには多くのマンションが建ち、人口が増えています。が、市川の端ということで公民館や図書館などの公共施設もなく、周辺の施設を利用するにも、バスの便利が悪いので困っている住民も多くいます。希望する公共施設を早く造ってほしいと思っています。 S.Y.

- 今年の夏は暑かった。暑い暑いと言っていたと思えば、いつの間にか秋になり、朝晩涼しくなっていて彼岸花が咲き出した。もっとも今年の彼岸花は酷暑のせい元気がなく華やかさに欠けている。北国分は、いまだこからともなくキンモクセイの香りが漂う季節である。



- 10月1日に国勢調査が行われた。日本の人口が減少し、就職口がなくなり、経済が低迷している。統計が数字となっははっきりさせるだろう。年寄りはずますます長生きして、それ自体はめでたいことだが、若い人たちが減り、生産力が落ち、国家財政が逼迫する。なんとか子供たちの元気な声があふれる北国分にしたいものだ。

- 編集後記 ■ 総会を終え、そのときお話しいただいた村岡さんに、‘小塚山の現状’をまとめていただいた。小塚山トンネルについては、掘削の工事から、いわば内装の電気工事や配水施設の段階に入っている。トンネルが完工しても外環供用までどれくらいの期間があるのだろう。その間の維持費を考えてみてほしい。夏の草刈りどころではない。配水ポンプの電気代、コンピューター制御の管理維持費、その費用は全部税金だ。莫大な無駄遣いが強いられる。その費用を国民はどれくらい払わされなくてはならないのだろうか。

# 緑のまち

—北国分だより—

第95号 2010.10.15 発行



編集 北国分外環対策協議会  
市川市北国分 2-29-12 越田方  
Tel 047-372-8936  
www.midorinomachi.net

## 小塚山を巡る環境の現状と懸念

村岡 幸生

7月31日の北国分外環対策協の総会にて、小塚山をめぐる環境の現状と題して私が小塚山とその周辺地域を含む13年間の主に‘野鳥の観察から見た小塚山の現状’について話しをさせていただきました。その概略は、外環道のトンネル工事の調査・測量・工事の開始と進行に伴い、野鳥の種類と生息数に激変があったことです。

特にアオジは、小塚山では一度に25羽も見られたこともあったのに、工事と共に姿を消し、以降は1羽も姿を見せません。しかし堀之内貝塚やじゅんさい池ではあまり変化がありませんでした。他にも姿を消した野鳥が多く挙げられます。シロハラ・ウグイスまでも激減しました。これは確実にトンネル工事が原因であることは分かっていますが、それを証明する証拠を挙げることはできません。生態系への影響は、人間を中心に規定された基準などでは測定できないからです。しかし、それを看過していれば、生態系の破壊は取り返しのつかないところへ行ってしまいます。また、この数年間に林の中低木を伐採し、繁みを取り払うという、生物多様性と林の再生と循環を無視した誤った管理が、さらに林の破壊に追い討ちをかけていると考えられます。

以上の現状の説明に加えて私の推測の範囲ですが、小塚山と水の問題についても話を致しました。以前から小塚山の赤松は枯れが目立っておりましたが、トンネル工事の調査が始まると同時に全滅し、およそ250本が伐られました。そして今は二、三本がかりうじて生き残っております。私の知るところでは赤松は淀んだ地下水を嫌うようです。また、北側斜面に近い所にあるミズキの木に、秋になると渡り鳥のヒタキの仲間のキビタキ・オオルリ・コサメビタキ・サンコウチョウが渡りの途中でその実を食べに毎年やって来て、バードウォッチング仲間でもよく知られたスポットでした。しかしその鳥たちもここ二、三年は姿を見せません。

南側近くにあるミズキの木には、もともとほとんど鳥は来ていないのが不思議でした。これらの鳥は水辺を好みます。水といっても沢ではなく、なんとなく湿った程度ですが、しかも少しずつでも動く水です。また、北側斜面の始まる所には、かつてサワフタギという灌木が何本もありました。この木もその名の通り、水を好む木です。しかしこれもいつ

の間にか姿を消してしまいました。その他ゴズイ・ムクロジ・サネカズラ・サルトリイバラ・タブが次々になくなりました。これらの現象は何を意味するのかと考えましたが、私はトンネル工事により水脈が遮断されたため、地下水の流れが止まってしまったのだと推測します。もともと、道免き谷津には、周辺の丘から水が流れ込み沢となっていたはずです。トンネル工事が始まる前は小塚山の北側を降りた所は湿地になっておりました。また堀之内1丁目あたりは埋め立てられた道免き谷津から水が流れ出しており、湿地になっておりました。冬には渡り鳥のタゲリも来ておりました。しかし今はすっかり乾燥しております。小塚山の地下水はどこへ行ってしまったのでしょうか。きっとトンネルにはばまれて、出口を失い流れが止まってしまっていると推測します。地下水は流れないと、新たに水を吸い込みません。たとえば植木鉢の底に穴があるので水は下に流れ出ます。それと同時に土に酸素を取り入れます。つまり小塚山の水脈は止まり、水は吸収されず、酸素も入らず、それが為に木々が弱り消えるもの、また生き残ったものも元気がなくなってしまうと考えられます。

エゴの花も七、八年前は地上に花が散り敷く程に咲いていたのに、最近はずかしく咲かず、その実を食べに来るヤマガラも、滅多に姿を見せなくなりました。小塚山の土に何が起こっているのでしょうか。あずまやの階段を降りて、アスレチックへ向かう道が、雨が降ると水が溢れるようになったと、その近くに住んでいる方が言っておられました。小塚山が水を吸い込まなくなってしまったのではないかと思います。地面の下のことで、目には見えません。あくまで私の推測ですが、トンネル工事と共に小塚山の地下水脈に変化があり、生態系への悪影響等々、大きな問題にならなければよいかと案じております。これからもわずかな変化にも注意をし、観察を続けて行くことにしております。

## □バードウォッチング日程□

平成 22 年 11 月 28 日 (日)

23 年 2 月 27 日 (日)

23 年 4 月 29 日 (休)

午前 10 時 小塚山あずまや集合 (雨天中止)

案内人 村岡幸生さん (日本野鳥の会会員)

小塚山からじゅんさい池まで、ゆっくり散策します。

お気軽にお出かけください。

主催：北国分外環対策協議会 (372) 8936 越田方



# 公害調停中間報告

北国分外環対策協議会

越田 常義

外環の公害調停を平成 19 年 2 月に始動してから 3 年半が経過しました。

公害調停の詳細については、調停中ということもあり、発表を控えることが申し合わされてきていますが、ここで中間報告をしておきたいと思えます。

この 9 月 30 日、最終の 15 回目の公害調停がありました。その際、佐野委員長より以下の発言がありました。「今日は最終調停日、最終案として作成、質問は聞くが意見は聞かない。住民の不利益、不安は取り除く必要があると考える。双方に出来るだけの譲歩を求めて出した最終案である」。

この発言があった後も、国交省側は引き延ばし作戦と思われるような提案をしていますが。実はこの公害調停最終日で、皆様にすっきりした形で報告できるものと期待していたのでした。誠に残念でした。

今後どのような展開になるのか予測のつかない事態となってきました。次の報告をお待ちください。

なおこの問題については公害調停申請人総会が、急遽 10 月 9 日 (土) 市川公民館第一研修室にて開催され、調停委員会提出の調停案を一部修正した最終案の審議を行い、可決しました。

## □ 公 害 調 停 □

○第 14 回 7 月 15 日 千葉市で開催。

住民 19 名参加。

○第 15 回 9 月 30 日 千葉市で開催。

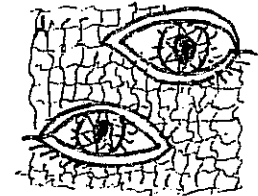
住民 13 名参加。

申請人 (住民側) は、調停案 (修正案) 受け入れの基本方針を調停委員に伝えました。

被申請人 (国など事業者側) は、修正案に対し更に部分的な訂正や削除を求め、了承されました。

調停委員会は申請人および被申請人の双方に対し、この修正案を受け入れるか否かの回答を期限 (11 月 12 日) までに文書で提出するよう指示しました。

○第 16 回 12 月 2 日 (双方が修正案を受け入れた場合)



## 第40回 北国分外環対策協議会 総会

(報告)

平成22年7月31日(土) 午前10時~12時

小塚山研修所 第2研修室(2階)にて

参加者 24人

議事 (議長 中村裕三さん)

○ 公害調停を中心とした活動報告について、活発な質疑応答があり、会計報告・会計監査報告を含め、議事は承認されました。

○ 新年度の活動計画

会報「緑のまち」発行 10月 1月 4月 7月

小塚山森の音楽会 5月

バードウォッチング 11月 2月 4月

外環連合会議 毎月

なお、オープニングに、外環運動40年目の総会を迎え、謡曲「羽衣」を萩原法子さん(シテ・天女)、斉藤諒三さん(ワキ・漁夫)のお二人に謡っていただきました。猛暑の中、涼やかな和服姿で登場されたお二人は、凛とした豊かな声量で謡われ、会場を魅了しました。心にしみわたる素晴らしいオープニングを有難うございました。

謡曲「羽衣」の舞台となった“三保の松原”の松にちなみ、《謡曲と松との関わり》《市川市の木・クロマツの今昔》について、萩原さんに書いていただきました。

○ 謡曲と松との関わり

能舞台の背景の「鏡板」には必ず老松が描かれている羽目板があります。もともと能舞台は野外の大きな木の下に作られました。松は常緑樹であり、繁栄のシンボルとして好まれ、神様が降臨する木と考えられていました。能を神様に奉納し、守っていただく、観ていただくようにとの願いがあったようです。祀る(まつる)はマツ(松)をあがめることから由来したとの説もあるくらいで、各地に残る「下り松」「影向(ようごう)の松」の地名も、神が降りる木として松をとらえた名残です。正月に立てる門松は、新しい年の神様・正月様に来ていただく目印です。門松にわらで編んだつぼ状の「つぼき」や「やす」とよばれる器をつけ、その中に年神様のお供えをする地方もありますが、市川の農家では、正月三が日、一升枧に雑煮と大根なますを入れ、箸で直接松の上に乗せて供えます。

○ 市川市の木・クロマツの今昔

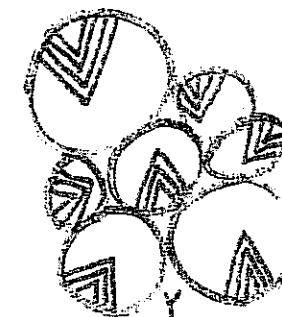
今からおよそ200年前、文化3年に、江戸の道中奉行が作った「水戸佐倉道分間延絵図」を見ますと、大門通りの両側の道は松がびっしり描かれ、立派な松並木になっていたことがわかります。現在は、当時の松はかろうじて1本残っているようです。市川市の木はクロマツであり、葛飾八幡神社をはじめとする神社仏閣に多少見ることはできますが、平田緑地や真間の斜面林など、かつて市のシンボルであった所の松は今は少なくなりました。松くい虫や大気汚染による松枯れに加えて、外環道路建設という無用の長物による破壊が大きな原因です。古来、神として崇められてきた松、市川に沢山あった松を思うと開発が人間の幸せにつながるかどうか疑問に思えます。



最近矢切に出る機会も少なくなったが、久しぶりにバスに乗ってみると、下矢切は、八百金をはじめ魚屋も薬屋もほとんどの店がまったく活気が失われている。

北総矢切駅裏にできた憩いの湯も、上矢切から移ったマルエツもどれくらいの利用者があるのだろうか。矢切セレモニーのお世話にはまだなりたくない。

北国分は外環が実際に供用されるようになると、小塚山研修所先の歩道橋のほかに二、三本の連絡通路でつながるだけの、1丁目は矢切に、2~4丁目は北総北国分駅が中心の町に完全に分割される。それがあと何年か先のことであるかは、当事者たちにもわからないことではあるが。



## 秋の花 ヒガンバナ

谷口 浩之

今年も大川原梅園の入口に真紅のヒガンバナが咲きました。毎年不思議に秋のお彼岸の前後に一斉に姿を見せます。そのため、そのものずばり「彼岸花」と呼ばれています。年配の方なら「曼珠沙華(まんじゅしゃげ)」のほうがとおりがよいかもしれません。

葉は花が咲き終わった後に出てきます。同じヒガンバナ科でも葉を先に出すキツネノカミソリと違います。他の植物のない冬枯れの中、弱い光ながら太陽の光を独り占めにし、一生懸命栄養分を地下の球根(鱗茎)に蓄えます。この鱗茎は、ご存知の通り有毒で食べられません。しかし澱粉が多く、すりつぶして長時間水にさらしておく、毒が抜け食用になるといわれ、昔、飢饉のときの非常食とするため、川の土手、田んぼのあぜ道、墓地に植えられたようです。(植えられた場所から非常用食用とは限らず別の意味もあるようです)。でも、食料がなかった今大戦でも、親が子どもの私に食べさせたという記憶はないし、食べたという人も聞かない。やはり毒という言葉が先にたって手を出さなかったのでしょうか。

新緑の頃、葉を枯らして地上部は姿を消します。夏になり、お盆のころに他の草刈をした後、茎を出すので目立ちます。気をつけて見ると、北国分のあちこちに咲いています。鮮やかな赤い花の形は一口では説明しがたく自然の造形の妙にただただ感心させられます。そんなきれいな花でも、手折って飾ろうとすることはありません。不思議なことです。

別の話になりますが、秋の花ワレモコウを撮ろうと、市川霊園に、ここ数年通うのですが、いつもお盆のときに刈られてしまうのでしょうか、まだ見ていません。ところが9月上旬に旅行した中国は、旅順、日露戦争激戦地の203高地の脇に咲いていました。あんなに苦勞していたのに、思いがけないところでの出会いに苦笑しました。



第3回 こうのだい九条の会

## 秋の文化展

地域のみなさま お気軽におこしてください

平和を願い、憲法九条を守りたい、その思いから北国分・堀之内・国府台・中国分地域の人たちが「こうのだい九条の会」をつくって2年半。講演会・学習会・見学会などに取り組んでまいりました。そして今回、3回目になる秋の文化展を国府台3丁目のSPACE SONO(スペースその)で開きます。会の趣旨に賛同される皆さまの幅広い作品(絵画・写真・書道・手芸・陶芸・俳句・絵手紙など)を展示し、平和の大切さと九条を守る輪を広げていきたいと思ひます。会場の前の真っ赤なモミジが出迎えてくれます。ご家族・ご友人お誘い合わせておこしてください。

日時: 11月27日(土)~12月5日(日) 最終日14時30分

平日 13時~16時

土・日 10時~16時

会場: SPACE SONO(地図参照)

市川市国府台3-11-9 駐車場はありません

